

## プレルーティングによるオリエンタル系ゆりの品質向上技術 (プレルーティング処理時の湿度条件と簡易処理技術)

抑制栽培において葉焼けなどの生理障害が発生しやすい品種に対しては、プレルーティング処理により生理障害の発生を大幅に低下させることが可能である。しかし、処理時の湿度が低いと処理効果が得られにくいことから、湿度を90%以上に維持して処理することが重要である。また、処理時の充填材として、オガクズやモミ殻をピ・トモスの代替材として利用することができる。

表1 プレルーティング処理時の湿度条件と品質(カサブランカ)

湿度条件	処理温度( )	処理期間(週)	葉焼け量	切り花長(cm)	出荷率(%)
90%以上	10	3	無	88.9	96.2
	10	4	無	90.8	92.4
	12	3	無	91.2	95.3
	15	3	無	95.2	95.3
42~52%	10	3	極少	86.2	89.1
	10	4	少	87.3	74.2
	12	3	少	85.8	81.5
	15	3	少	82.7	77.1

プレルーティング処理を低湿度条件で実施した場合、高湿度条件で実施した場合と比較して切り花長が減少する一方、葉焼け等の障害が増加して出荷率が低下する。

表2 プレルーティング処理時の湿度条件と出荷不能割合(カサブランカ)

湿度条件	処理温度( )	処理期間(週)	(%)		
			奇形花	落蕾	葉焼け
90%以上	10	3	3.8	0	0
	10	4	7.6	0	0
	12	3	4.7	0	0
	15	3	4.7	0	0
42~52%	10	3	8.3	0	2.6
	10	4	13.1	8.9	3.8
	12	3	9.4	5.9	3.2
	15	3	11.5	78	3.6

低湿度条件下で処理した個体の出荷不能原因は、ほとんどの処理区において奇形花、落蕾、葉焼けの順に大きくなった。

表3 充填材の種類と生育量、出荷率

充填材	切り花長(cm)	正常花蕾数	切り花重(g)	出荷率(%)
オガクズ	86.8	4.22	110.7	88.7
モミ殻	89.8	4.37	110.1	88.3
ピ・トモス	85.6	4.06	105.1	92.6

プレルーティング処理時の充填材は通常ピ・トモスを用いるが、安価で入手の容易なオガクズやモミ殻を利用しても同等な処理効果が得られる。